

編輯部報情閣内

報週真寫

日本に帰る青年アジア



勝って歸つた
兵隊の喜び

6
13・3・23
10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



早朝點呼の後の日課
體育場で若き胸を練る
「如何なる試練も怖れ
んぞ、隣國の後の音等
を見よ」と胸の筋肉が
ビリと動く。

談話室の午後の日射
し。お國の服に實いだ
陳さんと宋さん、あざ
やかな東京辯で、國の
噂に花を咲かせてゐる



屋上の洗濯場。自分のことは總て自分で、
洗濯板を取てをさへてシャツも靴下も無茶苦
茶にこすりつける。「東京の水は綺麗だな、
夕が、君相當冷たいぞ」明日の滿洲國大官も
こゝでは洗濯から。



地下廠の賣店。何を賣ふのかと拜見したら、
「君、足袋はありませんか、僕、十モン半で
「ナ」



朝の點呼。軍服がピツタリと足
についた學生もゐる。
「無敵」「三、四……」
日本の學生と少しも變りがない

寄宿寮の窓をあければ大東京が
パノラマのやう。目の下は大東京
の動脈、省線電車が賑うつ、九段
の丘、ビルの海が、春の陽に光る。
晩食。肉體に大森の入つた煮
物、豚の汁、うまさうな滿洲料理
お鉢の中は御飯代りのツカフカな
饅頭が一杯入つて、始めて滿洲國
人だつたと氣づいた。



この調理場は立派な滿洲料理屋だ、ギョー
ザも肉饅頭も板前の鮮やかなお手なみで奉天に
も、新京にも負けぬ一流の料理が出来てゆく。





東京回教學校

正午
先生も生徒もそれ／＼室に集つて、遠くメッカの聖地に静かな祈りを捧げる。この瞬間世界三位の回教徒の魂はアラブの神の下に集る。回教徒の強固な團結はかうした敬虔な姿にはつきりとうなづかれる。



世界の回教徒の總数は三億二千餘萬人、この内二億六千萬人餘が亞細亞大陸に居住してゐる。これら回教徒の大部分は被壓迫民族であるが、反つてこれら回教徒はその堅い信仰によつて獨特の宗教民族として團結し、嚴格な規律の下に鑿はれた素朴な民族的精神はコミンテルンの魔手を防いで回教徒自身の平和な世界を渴望しその實現に努めてゐる。

維からの號説と防共を旗印として、さきの滿洲國建國に就つて彼等自身の樂土建設に力強く動き出さうとしてゐる。既に亞細亞のために我が國が、今朝鮮を擧げて邁進しつつある時、かうした支那回教徒の動きこそは我が大陸政策に重大な意義を持つ。

現在、日本に居住する回教徒はム、ガ、ク、ル、パン、ガ、リ、氏を中心とするトルコ回教徒が主なるもので、いづれも敬虔な信仰の下に平和な生活を樂しむうことをアラブの神に感謝し、殊に我が皇座に對しては心から崇敬を抱いてゐる。亞細亞の盟主日本を學び、日本と共に伸びやうと努めてゐる眞劍さは回教徒一人一人の肩子にみえきつてゐる。

↑
日本に住むトルコ回教徒アルパサンガリ氏は又東京回教學校のやさしい校長先生だ。日本を學ぶ生徒たちに、氏は一番よく日本を知り、日本を愛する校長先生だ。平和と清直を旨とする宗教精神が可憐な生徒を異郷に在つても立派なトルコの國民に成育させてゐる。

↓
「第六朝 朝が来た。誰がからかな、さわやかな朝が来た」
はき／＼とした發音ふりは日本の子供と何の變りもない。優等の同胞は何もかも立ち遅れてゐる。こんなことではいけない。まづ僕らから日本人のやうに偉くなる。と、日本語の勉強に一生懸命。(左)

偉い日本！ 平和の日本！
大好きな日本の地圖は、もうそれでも書けるやうになつた。



「昨日、あたし日本のおべつたを着てみたの、着たと思つたら嫌なだけ、裾が長いんですもの」
無邪気な子供は何でもおもしろい。口一杯に強張り込んでおかしな顔が、アルミの舞臺箱にふき出さう。



この間からお腹をこわして小倉にちつと寝てみた山羊が、昔のやさしい心づかひですつかり元氣を回復した。
日本の温い懐に、神の恵みをうけてやすらかに育つ意心の平和な姿。
上級になると、實習の初歩として印刷術を教へられる。これにもクルペンガリ校長先生が自ら手をとつて指導し日本を學び日本を知るためのパンフレットもアラビア文字の活字を拾ひ、皆で印刷してゐる。



三上主筆の懇切な指導の下に、今春の入学試験を控へ一生懸命勉強する、リトラクール(十四歳)、リンカスバ(十三歳)の兩君。

農の部屋で日本の朝食。
「パンツセナさん、少し急がないと遅刻するよ」
「おい、リトラクール、もう風邪はなげつたやうだね」



談話室の一隅にあるピアノに向ひ熱心に練習を続ける食後のひととき。



名古屋衆善寮

日蓮親善は最近意々緊密の度を加へつゝあるが、亞細亞の盟主日本を忘らるべき、母國興隆の抱負の下に、運籌の若人は、はるく友を負つて我が國に遊學してゐる。
東京では國際學友會館や日白の善近衛公邸等に、日本式の正しい規律的團體生活を送つてゐるが、特に名古屋では篤志家伊藤次郎左衛門氏の盡力により同氏邸内衆善寮に運籌留學生を預かり、日本を、日本の文化を、學術を學ばせてゐる。

學校から歸つて夕食前のひととき、庭にでて彼らの母國、運籌古來の遊藝「タカラ」を楽しんでゐる。





「まいつし」
山の清気するはせて、
男も女も、情なす身刀
磨き、振りかぶり振り舞へ
は、汗の汗は、汗の額に
見ま、汗にはとばして
動き、汗の汗は、汗の額に
日本、後の護りかくて
こゝで
島根県安部郡日村小学校
女子校の鑑刀習練



見よ！試練の日本 銃後の力

—原里村特別厚生助成村—

原里村婦人消防隊の旗の下、水火も辭さぬ、全女子青年團員編成の隊員二百名、携帶用の消火器を手に、その防火訓練は、一糸亂れぬ鮮やかさ、指揮は、男子消防隊長が、當り、有事の際は、男子隊員と協力するが、一火事は最初の五分間、女の手で消し止める！と、合言葉も雄々しく、村を火から護る第一線に立つ。女子消防隊員は在る處安んぜよ、銃後の護りは堅い。

皇軍の戦ひは我々の闘ひだ、皇軍家族の護りは我々の試練だ！と、東に西に農村の娘達は立上つた。一人一人は、優しく、か弱い娘達も、まともな強くなる。貴客を退治しろ！と應召家族の爲に笑を、村口村女子青年團員が、山から飄然と夕暮に見よ、村に今日も炊きの煙は格かだ。

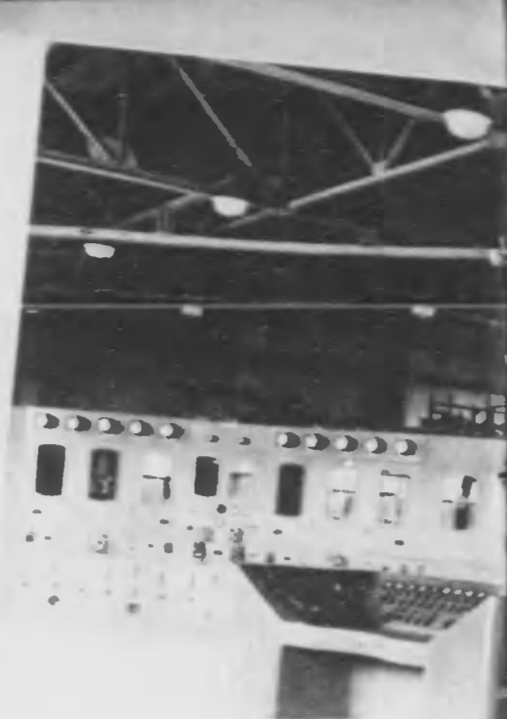


皇軍兵士の家族を護れ！と男手のない田畑に離れ出た女子青年團員、ぐつと燃つた拳も頼もしく、奉仕作業前、體操で協同の精神を鍛へ、體操の精神を鍛へ、おひ、集團のトラック、タリ、もんべにたすきの突撃隊がゆく所、百千町歩も何のその、土は黒い肌をうねらせ活き活きと蘇つてゆく！赤城の雄大な銀嶺を背に建國體操を行ふ群馬縣新田郡打村女子青年團員。



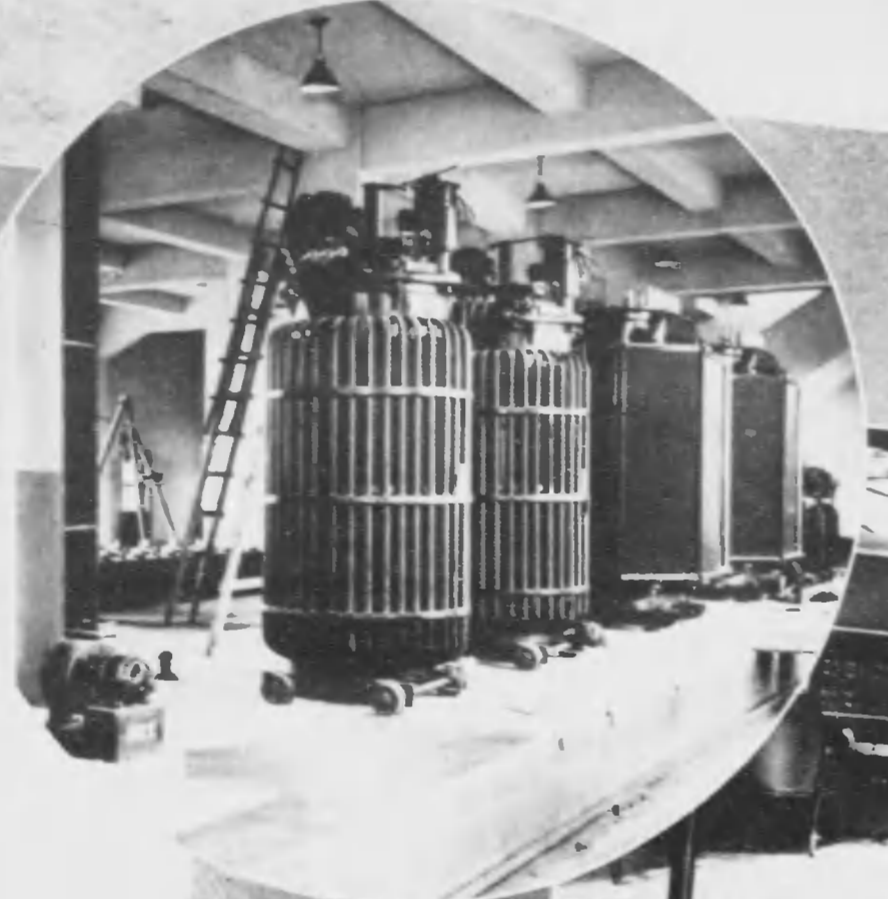
男子救護員に加はつて、防空防火その他天災に、一身を捧げて、村人の生命を護る女子青年團の任務は大い。無帯を巻く幼りの手、襟を結ぶおひの肩、愛の買だ、敵機よ來れ、災禍に負けじと、きりりとした鉄の聲に、真紅の十字も高く、救護作業訓練にいそむ打村女子青年團員。

耕地の空気がつんざく連軍喇叭、擬銃を肩に農村娘の歩武は、嵐々と土を踏む。静岡縣駿東郡原里村女子青年團員の、男子を離する銃後訓練。體育の訓練の他に、此處は、滿洲移民の盛んな村、華かな夢を秘めて、東亞の樂土を護る戦士として旅立つ日だ。來るか、捲亂者！大和撫子の氣魂も烈々、事ある秋に備へて教練の歩武を踏む。



この塔は、大電力放送の中核で、一五〇キロワット級の精密な各部の機械が、この形に並べられ、中央の制御室に集中して操作される。

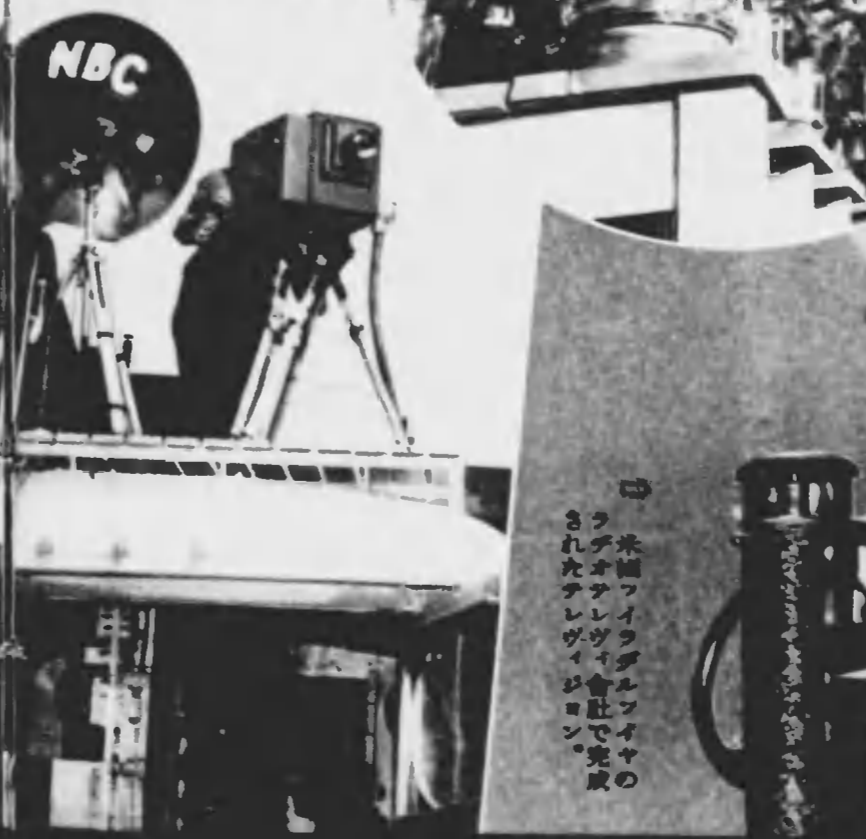
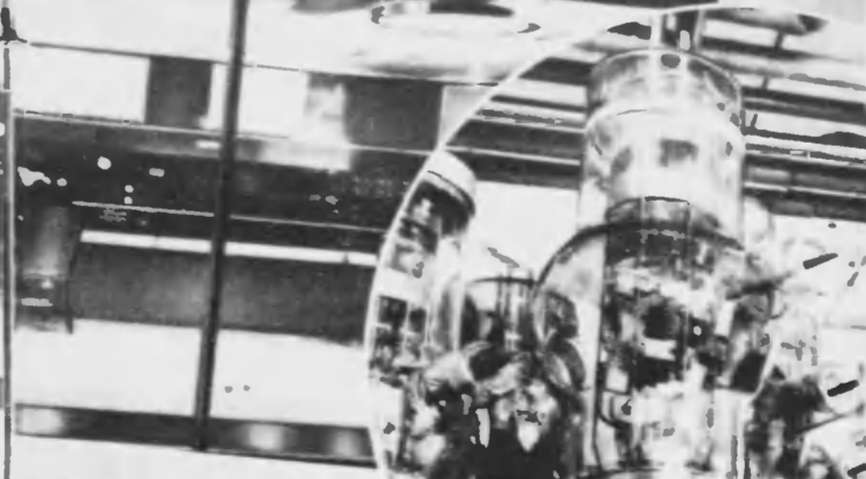
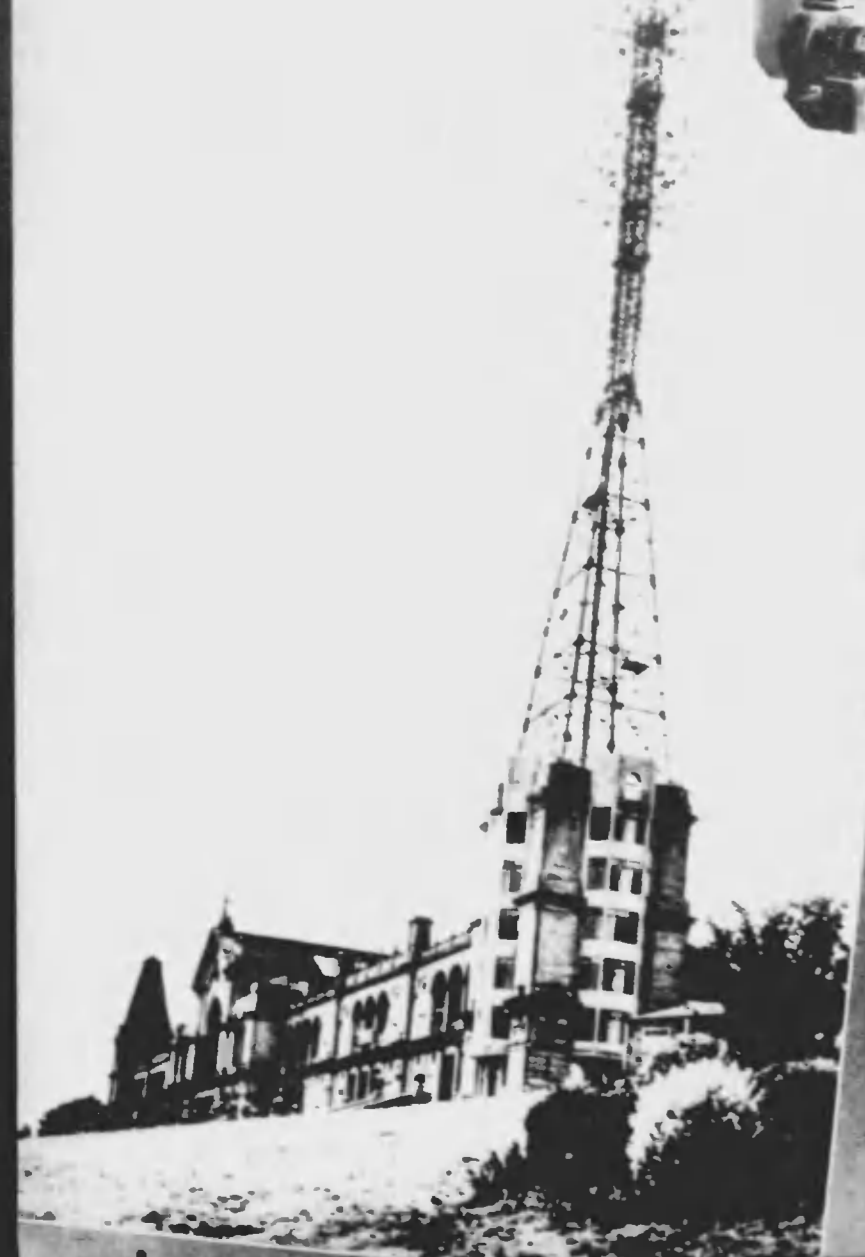
一五〇キロワットの大電力放送用の電力増幅管として、七型真空管が、一七個に損失二〇〇キロワットに及び、この真空管の動作中は自動的に冷水を循環させて冷却を確保する。この大電力放送用は、世界第二の大電力放送用である。



この塔は、大電力放送の中核で、一五〇キロワット級の精密な各部の機械が、この形に並べられ、中央の制御室に集中して操作される。

一五〇キロワットの大電力放送用の電力増幅管として、七型真空管が、一七個に損失二〇〇キロワットに及び、この真空管の動作中は自動的に冷水を循環させて冷却を確保する。この大電力放送用は、世界第二の大電力放送用である。

JOAK、川口放送所に今度建設された百五十キロワットの大電力放送用は、高さ三二七メートル、世界一、米国の二大ビルディングに次ぐ高さで、無煙の鋼筋コンクリート製の塔に、真空管の冷却装置が取り付けられている。この塔の頂上には、電波が伝わるのが注目される。



米国のラジオ放送会社が、この放送塔の中部、調整室と制御室に、自動作用のカメラを設置する。

この放送塔は、大電力放送の中核で、一五〇キロワット級の精密な各部の機械が、この形に並べられ、中央の制御室に集中して操作される。

米国のラジオ放送会社が、この放送塔の中部、調整室と制御室に、自動作用のカメラを設置する。

この放送塔は、大電力放送の中核で、一五〇キロワット級の精密な各部の機械が、この形に並べられ、中央の制御室に集中して操作される。

米国のラジオ放送会社が、この放送塔の中部、調整室と制御室に、自動作用のカメラを設置する。

この放送塔は、大電力放送の中核で、一五〇キロワット級の精密な各部の機械が、この形に並べられ、中央の制御室に集中して操作される。



読者のカメラ作

小さい敵機
防空遊戯
東京市板橋區 關根 根良男
鳴るよサイレン夜の街 空襲 空襲、
灯を消せば、敵の飛行機やつて来た、
まづくらの空にどうしよう、日本の
飛行機が立つた、忽ちはげしい空
中戦、敵の飛行機おちるよおちる、空
三つ、四つ、五つ、火を吹いて、空
襲解除、電氣はついた、日本は強い、
うれしいな



東京市板橋區 増田 勝男
可憐の勇士、体費も総動員された。麗かな春光の下に羽をひろげての猛訓練ぶり。



国防編隊



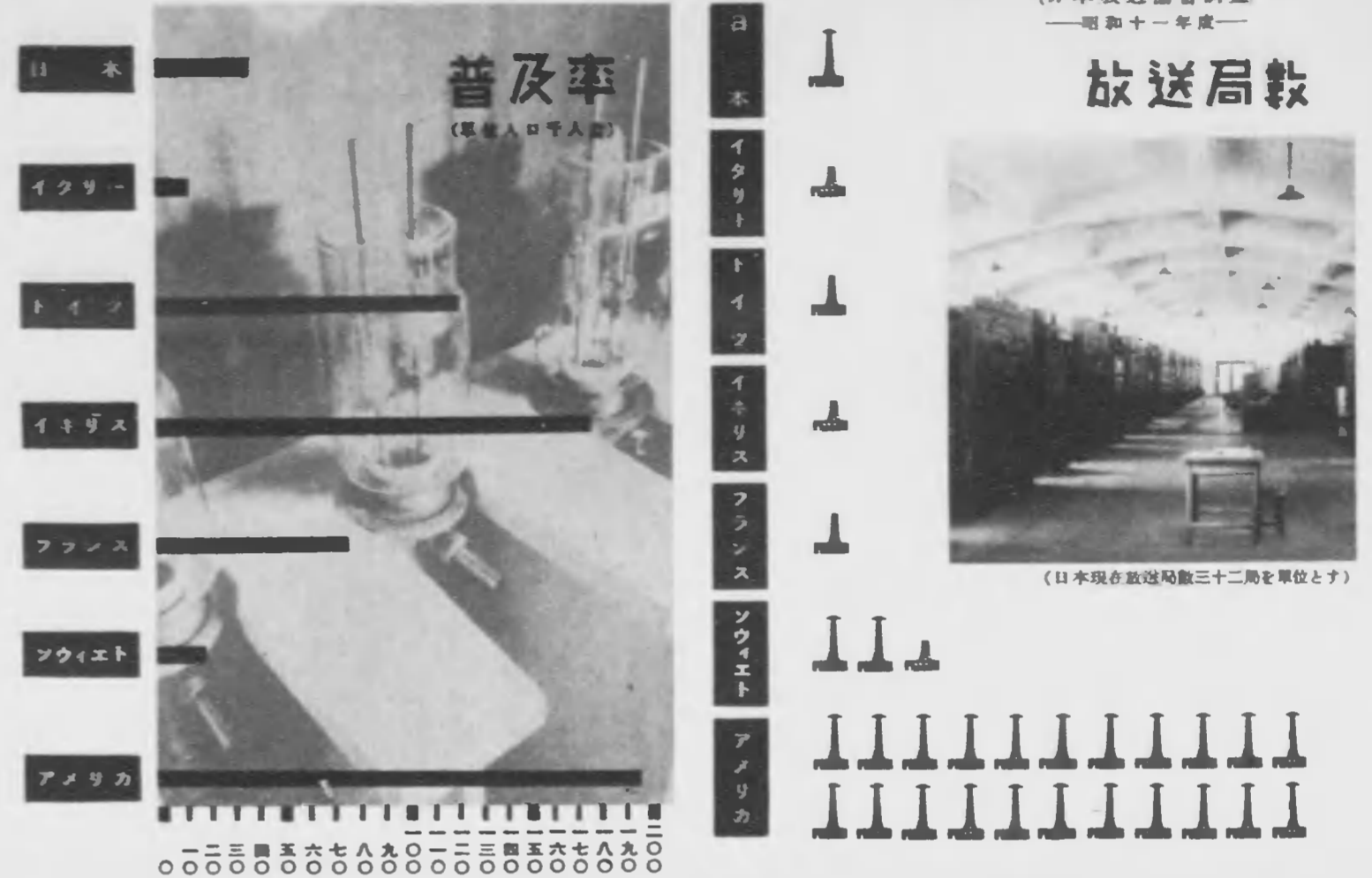
時局繪馬・二題
東京市板橋區 矢萩 輝貴



敵を捕いてオイチニイ
三原縣北平郡赤羽村小學校兒童は毎月十三日を勤勞日とし、勤勞隊はその日に来ると、徳川家の旗に委路みまきくもりもキれば、遠く山々の薪を拾ひ集めて家庭への配給に少年ながら汗の奉仕に努めてゐる。

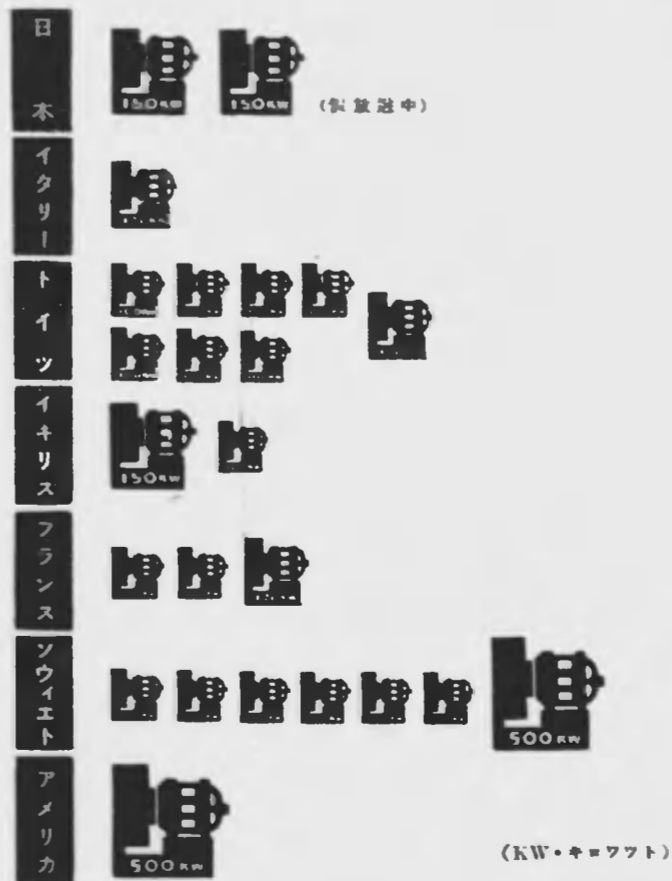
各國放送局數及普及率

(日本放送協會調査
昭和十一年度)

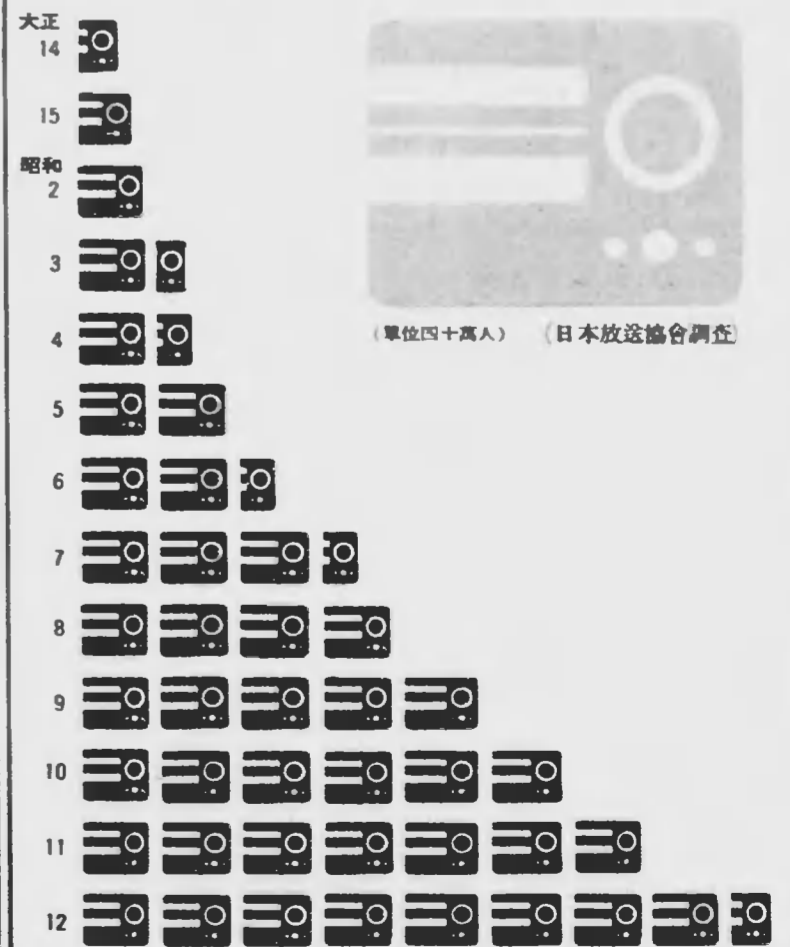


各大電力放送局數比較

(逓信省電務局調査
昭和十二年度)



ラジオ聴取加入數累年増加狀況



高麗週報

昭和十三年三月十七日 第三編 第四日 第四日 第五日 第六日

時局の認識は

日本放送

社団法人日本放送協会

(本書の大きさは縦横比4・1「週報」倍増)